

埼玉県・新座市立陣屋小学校

【学年】6年生 【参加児童数】78名 【実施日】6月18日(水)

真夏のような暑さのなか 熱の入った授業

関東が梅雨に入って1週間ほど。もう真夏ではないかというくらい暑さのなか、埼玉県・新座市立陣屋小学校の体育館には6年生78名が集まりました。



前半は、みんなで体育館に机とイスを運びこみ、授業に臨みました

授業は、どうして作文を書く
といいのか、というところから
始まりました。

「今日のお天気のように自分
ではどうすることもできない大
変なことがあった時、気持ち
を文章にすると、心がスッキリす
るかもしれません」と久米先生。
「作文は最初の書き出しが決
まると、全体が見えてくること
も」

「読書推せん文は本のどの部
分をおすすめるか、その『切
り口』が大切です」

久米先生の授業は、暑さを吹き飛ばすような気持ちに満ちていました。

来てくれてありがとう！ 感動の握手

陣屋小学校が久米先生の作文教室へ応募したきっかけは、児童の1さんからの一言でした。「先生、わたしこの作文教室に参加してみたい！」

1さんは、朝日小学生新聞に掲載された作文教室の募集告知を見て、作文教室に興味を持ち、先生に応募をお願いしたそうです。こうして、この日の作文教室実施へとつながりました。



後半は、各教室にて。久米先生に質問しながら、読書推せん文に挑戦

前半の座学が終了し、記念撮影を終えたあと、児童は体育館から教室に戻り、作文を書くことに。いつもの教室で、いつもとは少し違う作文に挑戦する眼差しは真剣そのもの。各教室が新たな熱気に包まれました。

授業が終わって、きつかけを

作ってくれた児童の1さんと久米先生は感動の握手。

「学校にお願いしてくれてありがとう。とてもうれしい！」

「陣屋小学校まで来てくれて、久米先生ありがとう、ごさいました(1さん)」

下校する児童たちが、久米先生を囲んで感想を言いました。

「私はミステリーが大好きなので、そういう本の良さを伝えたいと思いました」

「先生が『ストレスとか悪いことを心に溜めておかないために、文章にするのがいい』って言うていたのが刺さりました」



体育館ステージ前に集合！

暑さを吹き飛ばすような、爽快感にあふれていました